

製品名: サイクリン D3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09592**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	32kDa

抗原情報

遺伝子名	CCND3
別名	CCND3; G1/S-specific cyclin-D3
遺伝子 ID	896.0
SwissProt ID	P30281
免疫原	抗血清はヒトサイクリン D3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 243-292

背景

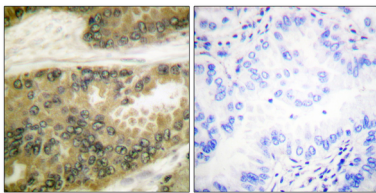
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、高度に保存されたサイクリンファミリーに属し、そのメンバーは細胞周期を通してタンパク質存在量の劇的な周期性によって特徴付けられる。サイクリンは CDK キナーゼの調節因子として機能する。異なるサイクリ

ンはそれぞれ異なる発現および分解パターンを示し、各有糸分裂イベントの時間的調整に寄与する。このサイクリンは、細胞周期の G1/S 期遷移に活性を必要とする CDK4 または CDK6 と複合体を形成し、その調節サブユニットとして機能する。このタンパク質は、腫瘍抑制タンパク質 Rb と相互作用し、そのリン酸化に関与することが示されている。このサイクリンに関連する CDK4 活性は、紫外線照射後の細胞周期が G2 期を経て有糸分裂へと進行するために必要であると報告されている。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見出されている。[RefSeq 提供、2008 年 10 月]、機能: G1/S 期 (開始期) 遷移における細胞周期の制御に必須。 ATF5 の転写活性を増強する。、類似性: サイクリンファミリーに属する。、類似性: サイクリンファミリーに属する。サイクリン D サブファミリー。、サブユニット: CDK4 および CDK6 プロテインキナーゼと相互作用して、セリン/スレオニンキナーゼホロ酵素複合体を形成する。サイクリンサブユニットは複合体に基質特異性を付与する。 ATF5 と相互作用する。 EIF3K と相互作用する。、

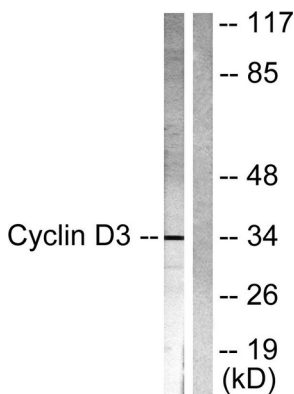
研究分野

Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;p53;WNT;WNT-T CELL 焦点接着;Jak_STAT;

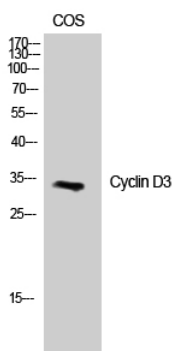
画像データ



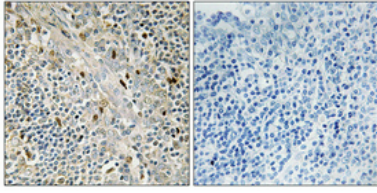
サイクリン D3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



フォルスコリン 40nM 30μL 処理した COS7 細胞ライセートのサイクリン D3 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



サイクリン D3 ポリクローナル抗体を用いた COS7 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。